

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>独自の理念を掲げ、地域の中でその人らしく生活できるよう支援している</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>学習会やミーティングの場を通じて、職員同士で理念の共有、実践に取り組んでいる</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>御家族様に理解していただけるようにホールに掲示している。又、地域の方々に対しては運営推進会議や交流の場で理解していただけるよう取り組んでいる</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>昨年度は地域の方々とラジオ体操や盆踊り、清掃活動等に参加し、交流の場が徐々に増えてきている。又、地域の高齢者等の暮らしについて役立つことがないか運営推進会議を通して話し合い取り組んでいる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員が外部評価、自己評価の意義を理解していない。前回の評価の改善すべき項目を最優先し、少しずつではあるが取り組んでいる。	○	全職員が自己評価、外部評価を実施する意義を理解できるように取り組んでいきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題に対して出席者から助言や意見を求め、良い案が出るよう働きかけている。又、話し合った結果について職員が理解しサービスの質の確保・向上につなげている。	○	入居者家族の出席率が低いので、現在はアンケート調査を実施するなど、家族からの意見が出るよう働きかけている
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価・自己評価の他にも、市役所の担当職員へ報告したり、助言をいただいている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと話し合い、助言をいただき取り組んでいる。	○	成年後見制度について知識が薄いため、研修や勉強会を通して学んでいきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、管理者からの指導や学習する場を設け、虐待を防ぐよう取り組んでいる。	○	高齢者虐待防止関連法について全職員が理解できるよう研修や勉強会を通して学んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望がある際には、事前に見学する等、納得していただいている。契約時には書面と口頭でわかりやすく説明し、不明な点が等ないか必ず確認している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等に対して、ミーティングや運営推進会議で話し合い、意見や助言を聞き改善に努めている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話にて報告している。又、毎月一回文章にて御家族に報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、投書で苦情・要望に関する受付を行っている。事業所内で処理できる内容については直接、職員や管理者が対応している。又、利用者や御家族様には、行政機関にも苦情窓口がある旨を伝えている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場で職員からの意見や提案を聞き入れ、運営に反映する努力をしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等で通常の人員配置で対応できない時は、予め必要な日に勤務者を確保できるような体制をとっている。又、状況に応じてその都度、勤務調整を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	御利用者様の混乱や事故を避けるために離職がある際には、慎重に説明している。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力に応じた研修を見極め、出来るだけ参加できるように心がけている。又、研修受講後は全職員が周知できるように、学習会やミーティングの場を通じ報告している。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークを通じ合同勉強会や懇親会を開くなどし交流を深め、職員の育成やサービスの向上に取り組んでいる。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	その都度管理者が相談や悩み等を聞き入れ、出来る限りの対応をしている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部への研修等に参加する機会を増やしていけるよう心がけている。又、現場の状況や勤務の状況を把握するよう努めている。	○	研修で学んだことを全職員が浸透し実践で活かす環境を作ることが出来るよう取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からはその都度訴えがあった際対応するように努めている。ご家族様は面会時や電話対応などを通じ話し合いを行っている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の訴えをよく聞き、どのようなサービスが必要か話し合いを行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がサービス開始時に混乱しないように御家族様にご本人様が今まで生活していたスタイルをよく聞き、可能な範囲でそのスタイルに近づけるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、利用者から学んだり共に楽しむことを心がけ、共感的、受容的な態度で臨んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて御家族の意向を聞いたり、利用者様の希望や要望を伝え、御家族と利用者の相互関係を築いていけるように支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と御家族の意向を把握し絆を崩さないよう支援している。又、疎遠になっている御家族様には必要に応じて連絡し関係が崩れないように支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙の代筆を行ったり、家族以外の方の面会も自由であり馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が関わり合いを持てるよう職員が間に入り話題を提供するなどし孤立しないよう支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された場合でも、相談を受け付ける旨を話している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方に対して、生活歴や価値観、御家族様からの情報など、あらゆる視点から本人本位の生活が出来るよう支援している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族から情報収集をして御本人様のスタイルに近づけるよう努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人ひとりの一日の生活リズムを把握し対応している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人や御家族様、関係者からの要望や意見を受け入れ介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングしているが途中で変化が生じた際は御利用者や御家族様、関係者に報告し、話し合いの下新たな計画を作成している。	○ 見直しをかけた後に全職員が新しいプランに沿って迅速に対応が出来るよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録や連絡ノートに記載したり、職員間での申し送りや伝達している。 介護計画書に沿っての記録が出来ていない	○	全職員が介護計画書を把握し、計画に沿っての実践が確実に記録出来るよう勉強会で指導し取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの立地条件等を活かし社会交流が出来るよう援助している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町会長や民生委員を始め、地域の方々からの理解をいただいている		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、地域包括支援センターや他のケアマネジャーとの話し合いを行っている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難ケース等、事業所に解決できない問題は地域包括支援センターに相談を依頼したり現在も共同している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診の結果を御家族に報告している。又、本人や御家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月2回の往診や、必要に応じて医師より指示を受けている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師が勤務し毎週1回健康管理チェックを実施している。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御利用者が入院された場合には病院関係者と情報交換し、入院中は入居者やご家族からの要望に対して迅速に対応し早期に退院できるよう努めている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	非常勤の看護師を配置し週に一回、往診で2週間に一回、日常的な健康管理を行っている。又、急変時の対応については医療機関と話し合い、御家族様にも報告している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御利用者が重度化した場合や看取りの指針について御家族様に説明しているが、まだ看取りには至っていない。	○	御利用者が重度化し当ホームで対応しなければいけない場合、全職員が迅速に対応出来るようミーティングや勉強会を通して看取りについて知識を深めることが出来る様取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームを退去された方には、家族や他の施設の方に馴染んだ環境に少しでも近づけるように話し合いや情報を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の意見を尊重し否定をしないよう心がけている。記録等の個人情報の取り扱いに配慮し取り扱っている。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望や意見の尊重を心がけている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を尊重し支援しているが業務の内容によっては叶わないこともある。	○	往診や行事と重ならないよう予定を組むなど利用者の要望を優先できるよう支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容院に関して、希望に応じ月一回の訪問理容を利用させていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に出来る限り沿えるよう配慮している。利用者と職員と一緒に食事を摂り、片付けも一緒に行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しては、利用者様個人で楽しめるように支援している。また、Drの指示により適正量を考慮し提供している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により個人のリズムを配慮して誘導を行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日を月・水・金としている。本人の意見を尊重し入浴の順番を決めている。	○	利用者の希望があれば隣にある温泉を活用するなど、入浴を楽しめるよう支援していきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりが自由に休息を取れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る範囲で家事の手伝いやレクリエーション等それぞれ役割を持ち行っていたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人の希望や好みの物は自由に購入出来るよう支援している。購入した物は事業所側で一時立替し御家族に請求している。又、金銭を所持している方への金銭管理の援助をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当ホームの立地条件等を活かし社会交流が出来るよう援助している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に行きたいところがあればその都度要望に応じている。又、行事を通して黒石や金木等遠方へ花見に行くなどしたり利用者や御家族様が外出できる機会をつくり支援している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	御家族様等から電話があった場合は利用者様と直接会話が出来るように呼びかけている。利用者からの依頼があった場合はその都度対応している。又、手紙等のやりとりも円滑に出来るように援助している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定しておらず、基本的に自由である。面会に来られた際、プライベートスペースがないので主に居室で過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して身体拘束の具体的な行為を理解するよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けておらず、自由に入出入りすることができる。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が声を掛け合い見守りしていき利用者それぞれの居場所を把握している。夜間は定時に巡回し様子観察している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態に応じ、事故に繋がりそうなものは見守りで対応し、必要に応じて職員が管理している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日常での利用者の状況を把握し、少しでも変化が生じた場合に対して常に疑問を持ち、迅速に対応出来るよう事故防止に努めている。事故発生時には事故報告書（ヒヤリハット）に記録し、再発防止の為に話し合いを行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時や事故対策について、定期的に研修や勉強会で知識を身につけている。救命救急については消防署で行い、隊員が講師となり指導を受けている。	○	今後も定期的に消防署で受ける予定である。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の協力により避難訓練や消火器の使用方法など定期的に行っている。又、地域の方々については運営推進会議で協力を働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に説明をし、利用者、ご家族からの理解を得ている。毎月家族に送る報告書に利用者の状況を伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックなどで、その日の健康状態を把握し、異変にすぐに気付けるように配慮している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容はファイルに残し、内容を把握できるようになっている。変化があれば、随時申し送りなどで職員に伝達している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな方には、便秘にいい飲食物を提供したり、トイレ誘導時には、腹部マッサージを行うなどで対応している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の義歯洗浄、うがいを出来る範囲で行っていただき、出来ないところは支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算等を行っていない。食事摂取量は随時記録し、職員が把握できるようにしている。又、要望により朝、昼食はパン食にするなど、希望に沿ったものを提供している。	○	嫌いな物に対して調理の工夫や代替りの物を提供するなど栄養のバランスに考慮して取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防のマニュアルを作成し、活用している。また、手洗いうがいを徹底し、随時、声を掛けている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板などの調理器具は、夕食後にハイター消毒している。食材は、痛みやすいものに関しては、当日や前日に購入するなど安全管理に努めている		
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、花を飾ったり、レクリエーションで利用者お手製の飾りをホーム内に展示するなどし雰囲気作りに努めている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強い日差しや証明にはカーテンをつけて対応したり、テレビの音量も調節している。また、装飾等、生活観を出している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置する等、居心地のいい場所をつくり、自由に過ごしていただいている。又、家族からの苦情により、喫煙場所を脱衣場から玄関入り口に設置する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に使い馴染んだもの等持参していただける ように利用者、御家族様に呼びかけている。又、 レクリエーションで作った作品等部屋に飾ってい る方もいる。	○	普段利用者からの要望、若しくは必要な物があれ ば家族が面会時、又は電話連絡にて報告し少しで も住み慣れた環境に近づけるよう取り組んでいき たい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室やリビングに温度計・湿度計を設置し、定期 的に換気を行うなど快適に過ごしてもらえよう 調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	階段に昇降機を設置するなど、安全に生活できる よう取り組んでいるが建物でも補えない部分につ いては福祉用具等を用い安全対策に努めている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの場所をわかりやすく張り紙をしたり、居 室が認識できない場合は、居室に目印をつけるな どして工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	ベランダや畑には花や作物を植え、草取り、水撒 きや収穫まで、利用者が出来る範囲で行ってい る。又廊下やリビングにソファを置き、馴染みの 仲間同士が自由に過ごせる場所を確保している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)